

根室市議会議員 本田 俊治 様

会派名 無所属
代表者名 久保田 陽

政務活動報告書

区分	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究 ・ <input type="checkbox"/> 研修 ・ <input type="checkbox"/> 広報 ・ <input type="checkbox"/> 広聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 ・ <input type="checkbox"/> 北方領土対策活動 ・ <input type="checkbox"/> 会議
活動テーマ・目的等	黒字化にある「あかびら市立病院・士別市立病院」の経営
期間	2020年2月5日（水）～2月7日（金）
参加者氏名	久保田 陽（無所属）、鈴木 一彦・橋本 竜一（日本共産党根室市議会議員団）
応対者	各市立病院事務局・医療関係者
場所	あかびら市立病院・士別市立病院
行程	2月5日（水） 根室市～中標津空港～新千歳空港～赤平市立病院 2月6日（木） 旭川市内宿泊先～士別市立病院～千歳市 2月7日（金） 新千歳空港～中標津空港～根室市
内容・成果等	<p>（1）あかびら市立病院</p> <p>対応者は、井上事務長・鈴木総看護師長・白戸副看護師長（地域連携室副室長）が対応。現在の人口は1万人弱。平成19年に19億5千万円の負債を抱え病院の存続も危ぶまれ、第2の夕張と言われ病院存続を市民の声が病院を残す選択をした。その代償も大きく、財政再建のため水道料値上げ公共施設（文化会館や公民館など）閉鎖、市職員の人件費30%削減や早期退職などを実行した。病院存続のため病床数を縮小（180床から150床）し、徹底した経営の効率化、繰出金の見直しを実施。約2億円を縮減。その中で市民も声を上げ、平成22年に「院内食堂」のまかないをボランティアで開始。入院病棟で使用するタオルの整理をボランティア協力している。平成23年に病床を120床（一般病床60床・療養病床60床）で再スタート。平成24年に、職員費3%を削減の中、築49年の耐震化の課題もあり病院建て替えを決断。その後、病院改革の取り組み成果により、23年から黒字化に転嫁した。</p> <p>（2）士別市立病院</p> <p>士別市の人口1万8千人規模だが、隣接する剣淵町3,235人（診療所）、和寒町3,599人（30床）を含むと約2万7千人の医療圏域となる。平成14年に常勤医師28名が平成20年に13名と半数以下となる。平成19年当時の不良債権は13億円を超え、危機的経営の中であり、隣接する名寄病院と救急搬送などで医療連携を強化し病院の役割を明確にすることで経営改善を実行していく。現在8名の常勤医師数となり診療収益も大きく落ち込む中、平成20年～26年の改革プランで掲げた目標は、病床を急性期から回復期・慢性期へシフト。急性期の患者は名寄病院に搬送し、退院後はリハビリを中心とした診療体制を充実させていく。現実的に、医療需要を推測しつつも、医師数と診療体制で最大限可能とする医療を提供する。身の丈に合う経営を目指した。厳しい経営にある中でも、昨年まで黒字化の経営を進めている。</p>

根室市議会議長 本田 俊治 様

会 派 名 無 所 属
代表者名 久 保 田 陽

政務活動報告書

区 分	<input type="checkbox"/> 調査研究 ・ <input type="checkbox"/> 研 修 ・ <input type="checkbox"/> 広 報 ・ <input type="checkbox"/> 広 聴 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 北方領土対策活動 ・ <input type="checkbox"/> 会 議
活動テーマ・目的等	北方領土返還要求中央アピール行動「アピール行進」
期 間	2019 年 11 月 30 日（土）～12 月 2 日（月）
参 加 者 氏 名	久保田 陽
応 対 者	元島民ら返還運動関係者等 約 5 0 0 名
場 所	日比谷野外音楽堂～銀座外堀通り～鍛冶橋交差点（約 1.6 km）
行 程	1 1 月 3 0 日（土） 中標津空港～羽田空港 1 2 月 1 日（日） アピール行進参加・新宿西口根室管内物産見学 1 2 月 2 日（月） 羽田空港～根室中標津空港～根室市
内 容 ・ 成 果 等	東京都心における北方領土返還要求中央アピール行進。昨年のシュピレヒコールは「北方領土を返せ！」を封印した格好で行進が行われた。しかし、今回はその言葉が復活したが、タスキは止め鉢巻きと小旗の行進となった。日比谷公園内で各主催者からの挨拶のセレモニーを一通り終え、西幸門から出発である。最前列には市長をはじめ 1 市 4 町の首長、道知事や国会議員が数十名列をなす。その後列に道議会議員の北特委員、根室市議会議員、元島民が並ぶ。その次に 1 市 4 町の市町村旗に 4 列縦隊に 1 市 4 町から参加する運動員が列をなし総勢 5 0 0 人規模の行進となる。私のすぐ後ろに中標津選出の道議会議員がおり、周りは支援者で賑わっている。参加者に対し、「去年は返還の声が出せなかった」しかし「今年は言える」と説明している。行進が始まり後半にさしかかる頃には、周辺の参加者の高齢者達は列を崩しはじめる。この行進に最初から参加したという男性の高齢者は、隣人と私語の連続であったり、別な高齢者の婦人は自らの列を離れ写真を撮ったりしている。前方の元島民は奮起し声高らかに「返せー」の張りつめる声が聞こえている。4 町の中でも温度差があるのを感じた一幕である。行進期間に同時開催される 1 市 4 町の特産品販売事業が新宿西口広場で行われており、3 日間の催しだが、根室市から出向いた職員が 4 漁協から依頼された商品を PR と販売に熱を帯びている。また、根室出身の噺家の金八さんがその左一角を占領し、北方領土にまつわる小話を披露。笑いを取りながら絶妙に領土問題を観客に伝えている。さらに、都民へ北方領土問題をクイズ形式にしたパネルを用意し、正解者には商品を手渡すなどの啓発事業も行っている。わずか数時間の行進に効果があるのかと言えば即答できない。しかし、日比谷公会堂の元島民からの「島を不法占拠された痛切な積年の言葉には」ひととき、誰もが声を失い、大きな大きな拍手だけが公会堂に響き渡る。その光景だけでも効果はあるのではないだろうか。